

乗雲

寺報
第91号

H27.3.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広蔵寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

汝等比丘、若し勤めて精進すれば、則ち事として難きものなし。是の故に汝等に勤めて精進すべし。譬えば少水の常に流れて、則ち能く石を穿つが如し。

遺教経

お釈迦様は臨終を前にして最後の説法をなされました。これは遺教経（釋尊最後の教え）として現代に



も受け継がれています。その経文に修行者が心がけるべき八つの教えがあります。その一つが「精進」です。

道元禅師の正法眼蔵八大人覺の巻には、「勤精進、諸の善法に於て、懃取すること無間なり。故に精進と云ふ。精にして雑ならず。進んで退かず。」とあります。修行には切れ目がありません。最後まで努力を怠るなどお示しです。「少水の常に流れて、則ち能く石を穿つが如し」いつも同じところに落ちる雨垂れも長い時間が経つと堅い石でも穴があく。努力も休まず続けることによって何事も成し遂げることができる。遺教経では説いています。

また、仏道修行には六つの悟りに至る実践徳目（六波羅密）があります。布施（物でも心でも他の助けとなる施し）、持戒（守るべき戒め）、忍辱（苦しさに堪え忍ぶ）、

禪定（心を落ち着かせる）、精進（努め励む）、智慧（物事を正しく見る）です。一年中で一番気候の良い春秋のお彼岸はお中日（墓参り）をはさみ、前後三日間にこの六波羅密を實踐して、心を正しく保つための修養期間としています。

「継続は力なり」との言葉がありますが、人生の正しい方向に進んでいくには、切れ目なく怠ることなく一日一日積み重ねていくことが大事であり、これを「精進」と言います。精進すれば「事として難きものなし」だれでも、どんなことでも必ず成し遂げることができます。

*お釈迦様は今からおおよそ二千六百年前の二月十五日（旧暦三月十五日）にインドのクシナガラ、沙羅の木の生い茂る地で、沢山の弟子たち、動物、虫にいたるまであらゆる生き物に囲まれ、頭北面西右脇臥（頭を北に顔を西に右に身体を横たえた姿）で臨終を迎えられました。涅槃図はその最後の皆が嘆き悲しんでいる様子を如実に再現しています。

平成二十七年年度年回表

〔回忌〕

〔没年〕

- 一周忌 平成二十六年
- 三回忌 平成二十五年
- 七回忌 平成二十一年
- 十三回忌 平成十五年
- 十七回忌 平成十一年
- 二十三回忌 平成五年
- 二十七回忌 平成元年
- 三十三回忌 昭和五十八年
- 五十回忌 昭和四十一年
- 百回忌 大正五年

*今年（平成二十七年）の年回忌表です。正当の各家には昨年十一月に通知しています。
*日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。